



調査概要

1. 調査期間 2026年8月10日(月)～2026年8月24日(月)
2. 調査対象 札幌商工会議所定期景気調査 登録企業764社
3. 回答状況 303社（回答率40%）
4. 調査項目 ①8月の業況と先行き見通し
②生成A I の活用状況
5. 回答企業属性

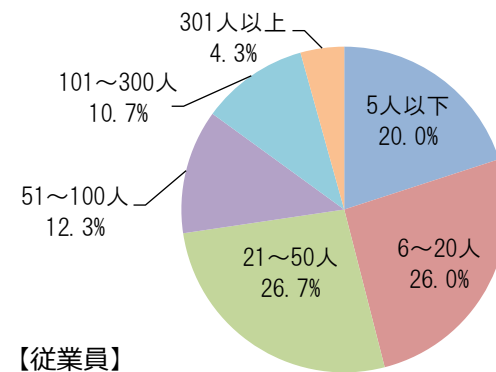
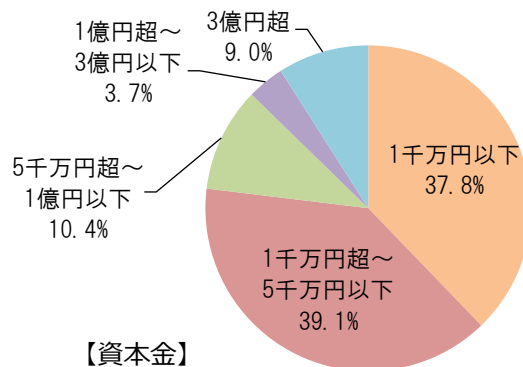
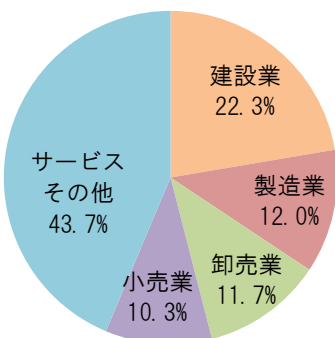
（参考）全国の調査結果についてはこちらをご参照ください



日本商工会議所
The Japan Chamber of Commerce and Industry

商工会議所LOBO調査 結果

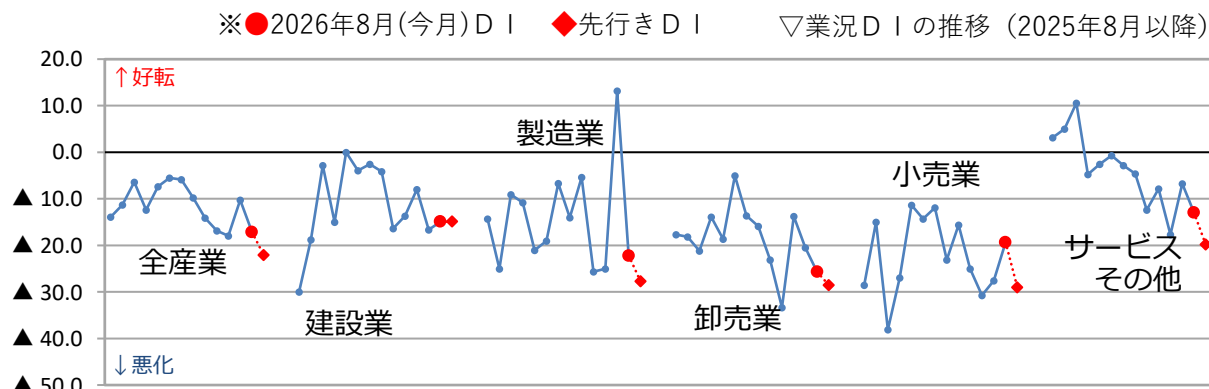
<https://cci-lobo.jcci.or.jp/>



①8月の業況と先行き見通し

全産業合計の業況DIは▲17.2と、前月から6.9ポイント悪化。先行き見通しDIは▲22.1と悪化の見込み。

	2026年		
	7月	8月	9月～11月
全産業	▲ 10.3	▲ 17.2	▲ 22.1
建設	▲ 16.7	▲ 14.9	▲ 14.9
製造	13.2	▲ 22.2	▲ 27.8
卸売	▲ 20.5	▲ 25.7	▲ 28.6
小売	▲ 27.6	▲ 19.4	▲ 29.0
サービスその他	▲ 6.8	▲ 13.0	▲ 19.8



※DI値について…ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

※先行き見通しDI＝当月(8月)と比べた、向こう3ヶ月(9月～11月)の先行き見通し

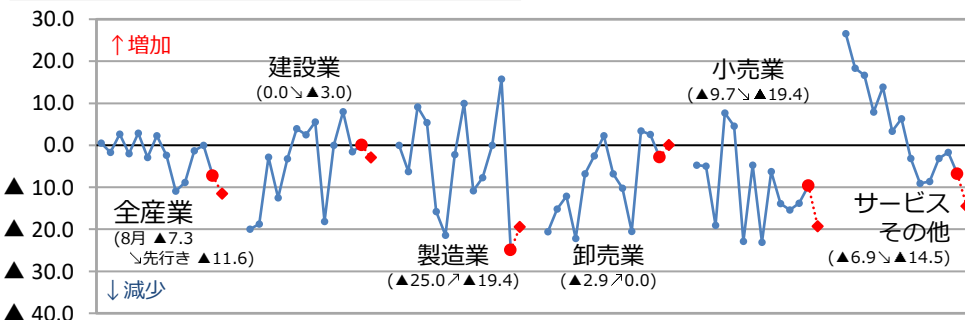
【例】

$$\text{業況DI} = \frac{(\text{好転} - \text{悪化}) \times 100}{(\text{好転} + \text{不変} + \text{悪化})}$$

1) 売上D I と先行き見通し

▽売上D I の推移 (2025年8月以降)

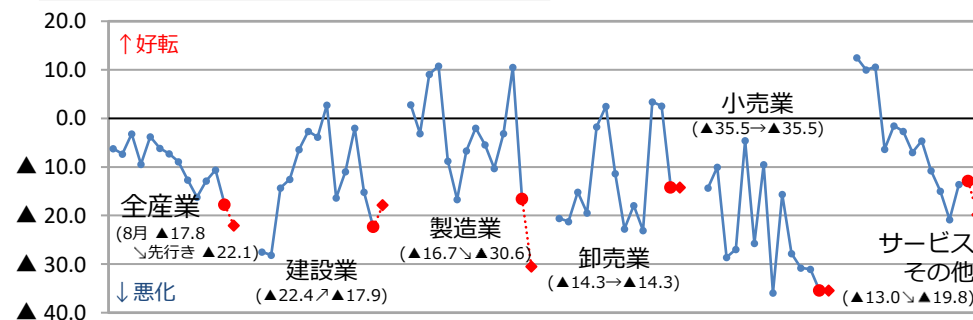
売上D I は▲7.3と前月から7.3ポイント悪化。
先行きD I は▲11.6と悪化の見込み。



2) 採算 (経常利益) D I と先行き見通し

▽採算D I の推移 (2025年8月以降)

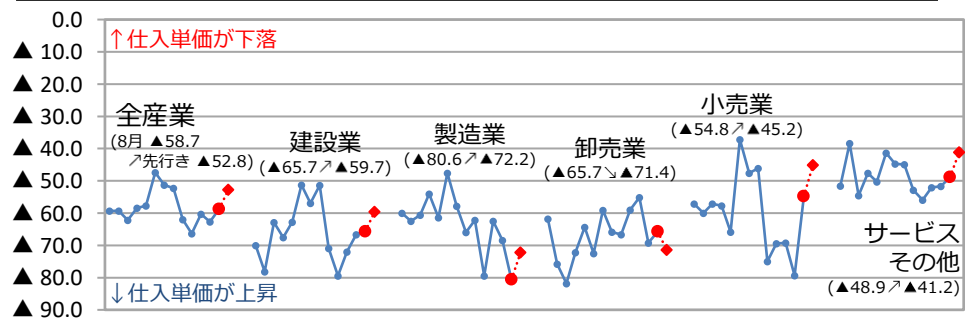
採算D I は▲17.8と前月から7.2ポイント悪化。
先行きD I は▲22.1と悪化の見込み。



3) 仕入単価D I と先行き見通し

▽仕入単価D I の推移 (2025年8月以降)

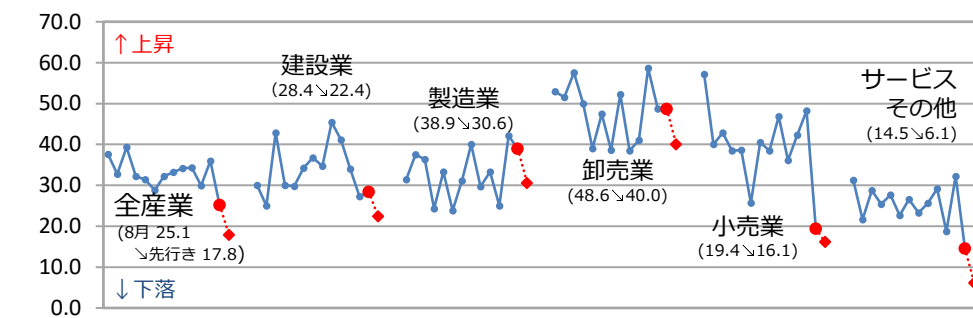
仕入単価D I は▲58.7と前月から4.0ポイント改善。
先行きD I は▲52.8と仕入価格の上昇を訴える傾向が弱まる見込み。



4) 販売単価D I と先行き見通し

▽販売単価D I の推移 (2025年8月以降)

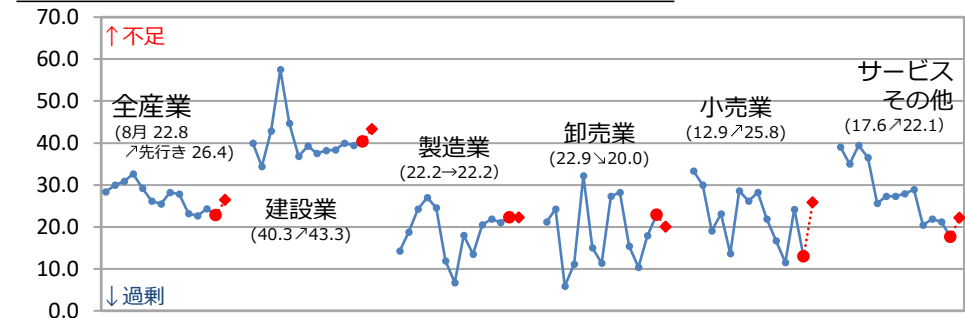
販売単価D I は25.1と前月から10.9ポイント悪化。
先行きD I は17.8と悪化の見込み。



5) 従業員D I と先行き見通し

▽従業員D I の推移 (2025年8月以降)

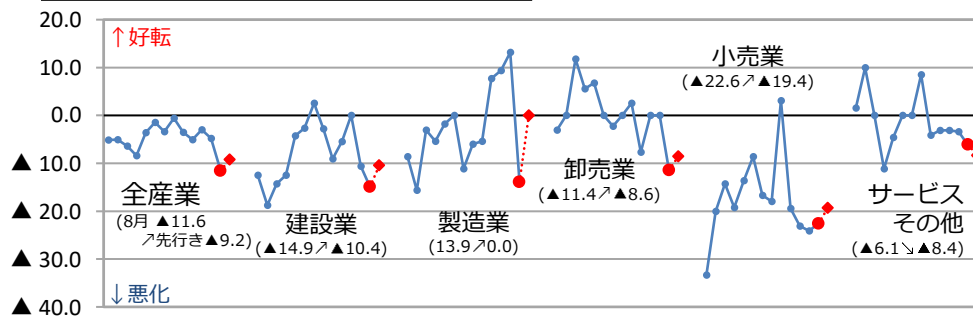
従業員D I は22.8と前月から1.5ポイント減少。
先行きD I は26.4と人出不足感が強まる見込み。



6) 資金繰りD I と先行き見通し

▽資金繰りD I の推移 (2025年8月以降)

資金繰りD I は▲11.6と前月から6.8ポイント悪化。
先行きD I は▲9.2と好転の見込み。



②生成 A I の活用状況

- 生成AIの活用状況について、「全社的に活用」（19.6%）、「特定部門で活用」（20.3%）、「希望者のみ活用」（19.6%）をあわせて「活用している」が59.5%と、半数を超える割合となった。2025年11月の前回調査から20ポイント増加と大幅に「活用している」の割合が上昇した。【図1】
- また、「現状では活用していないが、今後活用を検討」は21.0%で、「活用している」とあわせて8割以上の企業が生成AIの活用に向かい。
- 生成AIを活用（活用を検討）している業務では、「文書作成・要約」が84.6%と最も多かった。次いで、「情報収集・アイデア出し」（57.1%）、「データ集計・分析」（38.3%）となった。【図2】
- 「文書作成・要約」といった生成AIが得意とする定型業務分野での活用が定着しているとともに、「デザイン・画像生成」の割合が増加、「データ集計・分析」も3割を超えるなど、様々な分野で生成AIの活用が進んでいることがうかがえる。

図1 【生成AIの活用状況】

- 全社的に活用している
- 特定部門で活用している
- 希望者のみ活用している
- 現状では活用していないが、今後活用を検討している
- 活用する予定はない

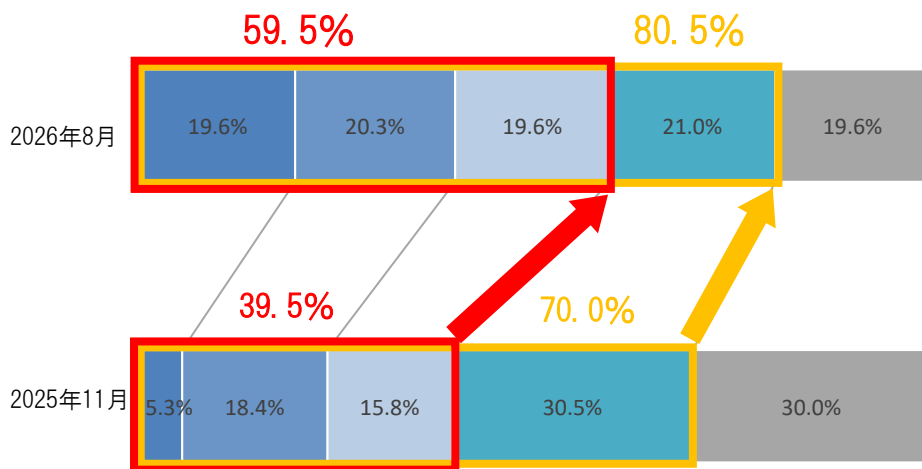
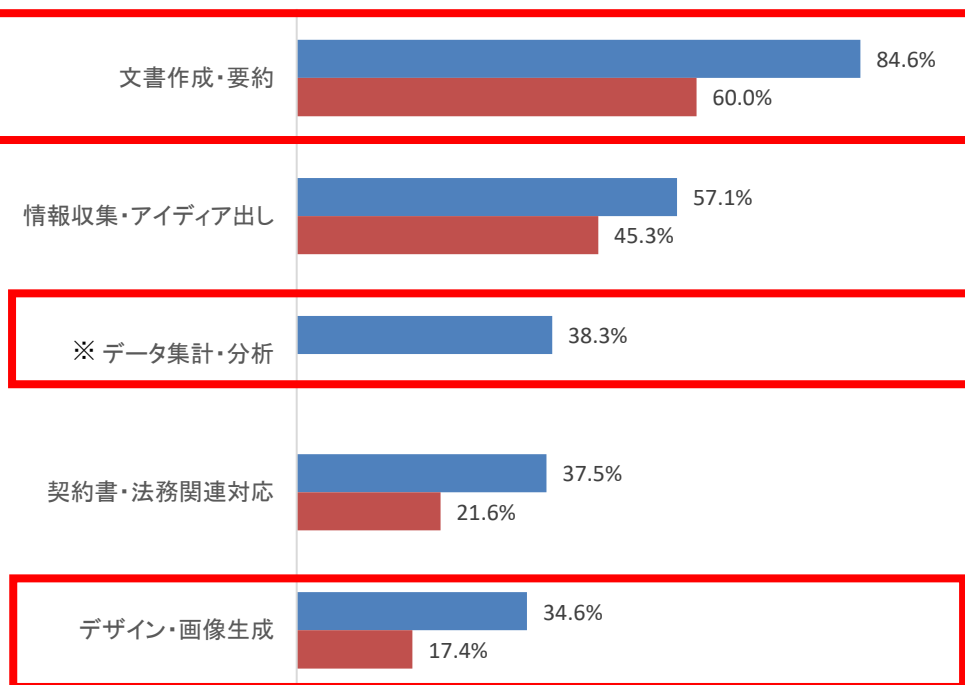


図2 【生成AIを活用（活用を検討）している業務】（複数回答/上位5位）

※「全社的に活用」「特定部門で活用」「希望者のみ活用」
「現状では活用していないが、今後活用を検討」と回答した企業が対象

■ 2026年8月 ■ 2025年11月



※「データ集計・分析」については、2025年11月調査では選択肢となっていない
2026年8月調査と2025年11月調査では一部選択肢が異なるため、単純比較はできない

②生成 A I の活用状況

- ▶ 生成AI活用による効果は、「業務時間の削減・作業効率化」が59.6%と最も多くなった。生成AIが得意とする定型業務分野での活用が進んでいることで、業務時間の削減・作業効率化といった部分で効果を感じていることがうかがえる。【図3】
- ▶ 生成AIの利用に関する社内ルール・ガイドラインの整備状況について、「既存の社内規定で対応」が最も多い37.8%の一方で、38.4%が社内ルール・ガイドラインを整備できていない。中小企業が参考にしやすいよう実態に即した平易な利用基準の提示などの支援策が求められている。【図4】
- ▶ 生成AI活用にあたっての課題は、「活用できる業務の洗い出し、活用方法の検討」が55.1%と最も多く、次いで、「生成AIの活用に向けた社員教育、社内ルールの制定」（44.6%）、「生成AIの活用を主導・推進する人材の育成・確保」（37.6%）であった。【図5】

図3 【生成AI活用の効果】

※「全社的に活用」「特定部門で活用」「希望者のみ活用」と回答した企業が対象

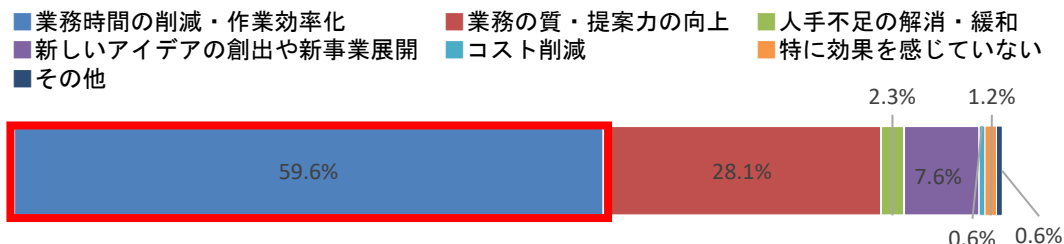


図4 【生成AIの利用に関する社内ルール・ガイドラインの整備状況】

※「全社的に活用」「特定部門で活用」「希望者のみ活用」と回答した企業が対象

- 生成AIの利用に関する社内ルール・ガイドラインを策定し運用（策定中含む）
- 生成AIの利用に関する社内ルール・ガイドラインはないが、既存の社内規定で対応
- 生成AIの利用に関する社内ルール・ガイドラインを今後策定・運用したいが、何を参考にしたらよいかわからない
- 生成AIの利用に関する社内ルール・ガイドラインを策定する予定はない、必要性を感じない

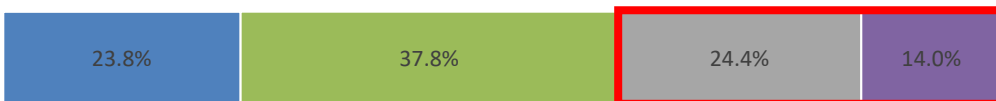
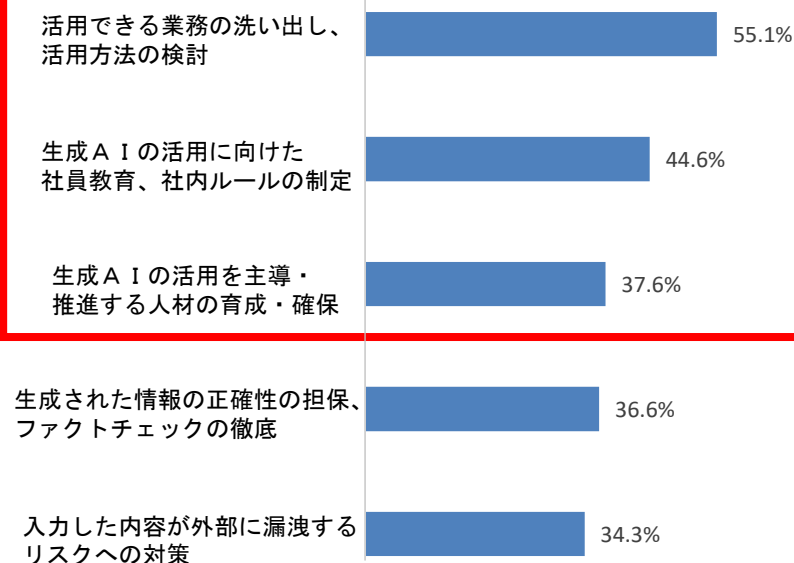


図5 【生成AI活用にあたっての課題】（複数回答/上位5位）



（参考）会員の声

- ▶ 建築価格・金利上昇による取得マインドの低下や、実質的土地取引の減退が不動産全体の動きに与える影響を懸念。…【不動産仲介業】
- ▶ 物価や人件費上昇分を価格転嫁すると売り上げは伸びない。消費税に加え、社会保険等の個人負担軽減を求める。…【各種商品卸売業】
- ▶ 公定価格で運営する介護事業者は、最低賃金の改定や賃上げ分を価格転嫁することができない。…【その他の事業サービス業】
- ▶ 生成AIは社員各自の能力アップには役立っているが、業務負担軽減にはまだ自社の研究やAIの発展が必要。…【一般機械器具製造業】
- ▶ 積極財政で賃上げや設備投資、AI関連事業を行いたい、コロナの負債が尾を引いておりチャンスを逃している。…【管工事業】